

# 『在宅医療における摂食嚥下リハビリテーション ～咀嚼の位置づけの再考～』

鶴見大学歯学部高齢者歯科学講座 講師

菅 武雄 先生

## 【略歴】

平成2年	4月	鶴見大学歯学部	補綴学第一講座	臨床研修医
平成3年	4月	同	同	診療科助手
平成3年	10月	同	同	助手
平成8年	4月	同	高齢者歯科学講座	助手（移籍）
平成22年	4月	同	同	講師

歯科医師（112274号：平成2年6月5日）・博士（歯学）（鶴見大学第234号：平成19年11月19日）  
日本老年歯科医学会 理事、指導医・専門医、摂食機能療法専門歯科医師、在宅歯科医療委員会委員長  
日本補綴歯科学会 指導医・専門医  
日本咀嚼学会 理事・評議員・編集委員会委員  
日本摂食・嚥下リハビリテーション学会 評議員  
日本口腔リハビリテーション学会 評議員  
介護支援専門員、横浜市介護認定審査会委員

## 【著書】

- 1) Poul Holm-Pedersen「高齢者歯科学」, 永末書店（共訳）, 2000.
- 2) イラストレイテッド・クリニカルデンティストリー①, 医歯薬出版（共著）, 2001.
- 3) 口腔ケアハンドブック～歯科の知識と介入レベル別口腔ケア, 日本医療企画（単著）, 2002.
- 4) 最新歯科衛生士教本・高齢者歯科, 医歯薬出版（共著）, 2003.
- 5) 日本歯科評論別冊「予防補綴のすすめ」, ヒョーロン・パブリッシャーズ（共著）, 2004.
- 6) 歯科衛生士のための高齢者歯科学, 永末書店（共著）, 2005.
- 7) 日本歯科評論別冊「器材からみるオーラルケア」, ヒョーロン（共著）, 2005.
- 8) 不整脈学会監修「生体内植込みデバイス患者と電磁干渉」, メディカルレビュー（共著）, 2007.
- 9) 口をまもる生命をまもる「基礎から学ぶ口腔ケア」, 学習研究社（共著）, 2007.
- 10) う蝕学 ～チェアサイドの予防と回復のプログラム～ 永末書店（共著）, 2008.
- 11) 日本老年歯科医学会監修「口腔ケアガイドブック」, 口腔保健協会（共著）, 2008.
- 12) 日本歯科医師会編「高齢者の口腔機能管理」, 日本歯科医師会（共著）, 2008.
- 13) 日本老年歯科医学会編「老年歯科医学用語辞典」, 医歯薬出版（共著）, 2008.
- 14) 吉田和市編「ナーシングケア Q&A No. 30 徹底ガイド 口腔ケアQ&A」, 総合医学社（共著）, 2009.
- 15) 「歯科医療の未来を創る」口腔ケアの新展開, 日本歯科医学会（共著）, 39-41, 2010.
- 16) 日本老年歯科医学会「口腔機能維持管理マニュアル」, 口腔保健協会（共著）, 2010.
- 17) 日本老年歯科医学会「高齢者歯科診療ガイドブック」, 口腔保健協会（共著）, 2010.
- 18) 歯科衛生士国家試験対策検討会「ポイントチェック歯科衛生士国家試験対策4」, 医歯薬出版（共著）, 2012.
- 19) 森戸光彦編集主幹「歯科衛生士講座『高齢者歯科学』」, 永末書店（共著）, 2012.
- 20) 在宅歯科医療まるごとガイド, 永末書店（単著）, 2013.
- 21) 全国歯科衛生士教育協議会監修「最新歯科衛生士教本 高齢者歯科（第2版）」, 医歯薬出版（共著）, 2013.
- 22) 高井毅、戸塚靖則監修「口腔科学」, 朝倉書店（共著）, 2013.
- 23) 「判例からみた医療安全」, わかば出版（共著）, 2014.
- 24) 口から食べるストラテジー ～在宅歯科医療の診療方針と実際～, デンタルダイヤモンド（共著）, 2014.
- 25) 日本老年歯科医学会「老年歯科医学」, 医歯薬出版（共著）, 2015.
- 26) 鴨井久一、菊谷 武監修「多職種協働チーム先制医療での口腔ケアFAQ50」, 一世出版（共著）, 2016.
- 27) 日本老年歯科医学会編「老年歯科医学用語辞典」, 医歯薬出版（共著）, 2016.
- 28) 北村知昭他編「高齢者への戦略的歯科治療」, 医歯薬出版（共著）, 2017.
- 29) 佐藤裕二他編「よくわかる高齢者歯科学」, 永末書店（共著）, 2018.

## 【抄録】

咀嚼学会からの情報発信のみならず「口から【噛んで】食べる」ことの重要性が見なおされています。摂食嚥下リハビリテーションの領域でも咀嚼の意味が強調されるようになってきました。いま、リハの最先端ではなにが行われているのでしょうか。

摂食嚥下リハビリテーションは在宅医療のひとつの「柱」になっています。それは、地域包括ケアシステムのなかで歯科が担当する領域であることは当然として、求められる4つの機能として知られる「日常の療養支援」「急変時の対応」「退院支援」「看取り」の全ステージに「口から食べる」ことが連動しており、そこに歯科の役割が大きいことが判ってきたからです。

今回の講演会では、在宅医療における摂食嚥下リハビリテーションを、咀嚼を加味した新しい展開についてお伝えします。また、胃瘻からの経口摂取、そこからのリハについてもノウハウが蓄積されてきたのでお伝えします。

(この講演会は日本咀嚼学会健康咀嚼指導士企画研修会として実施します)